株主の皆様へ

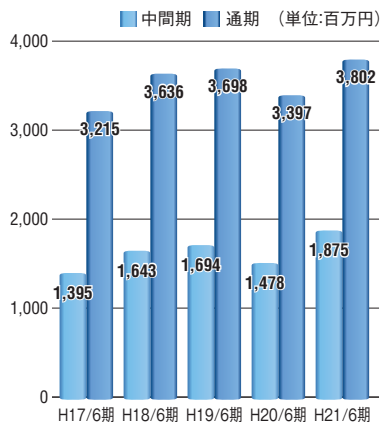
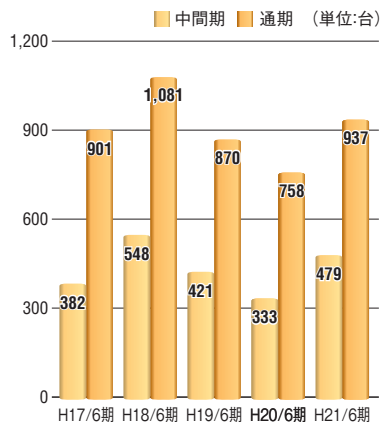
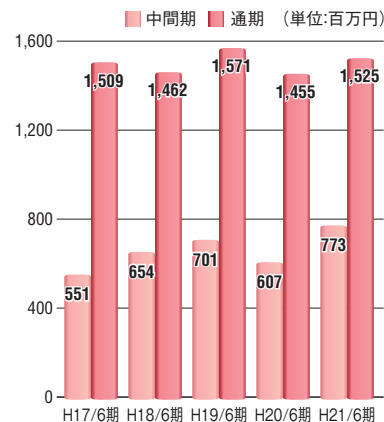
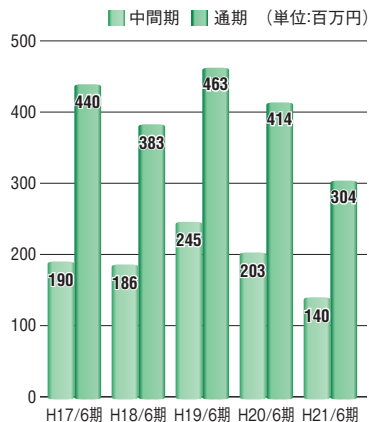
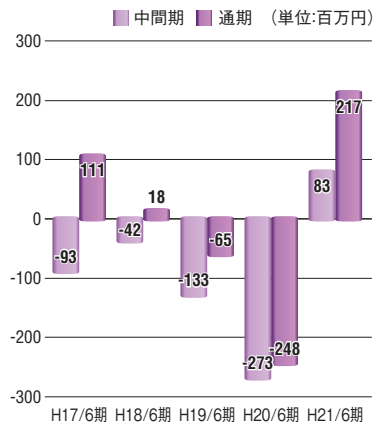
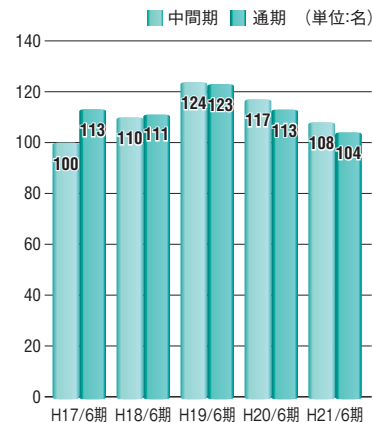
第24期 事業報告書

H20年7月1日▶H21年6月30日

目次

プレシジョン・システム・サイエンス株式会社

連結財務ハイライト

売上高

DNA自動抽出装置等販売台数

売上総利益

研究開発費

経常利益

従業員数

（注）1.　金額表示につきましては表示単位未満を切り捨てて記載しております。
　　 2.　従業員数については、グループ会社役職員、派遣社員、パート等を含む人数を記載しております。

トップメッセージ 第24期（前期：H21／6期）の総括・第25期（今期：H22／6期）への抱負

株主の皆様におかれましては、ますますご健勝のことと、お慶び申し上げます。
また、日頃より、ご支援ご鞭撻を賜り、深く感謝申し上げます。

第24期においては、第23期（前々期：H20／６期）下期よりPSSグループ社員が一致団結をして推し進めてまいりました3つの事業指針が、着実な成果として現れました。その結果として、最近の世界的な不況による経済環境の悪化にもかかわらず、当社においては過去最高の売上高（38億円）と最終損益の黒字化（73百万円）を達成する事ができました。第25期においても、これら事業指針の徹底により着実に成果をお見せできるように事業を推進してまいります。

以下にこれら事業指針について第24期の総括と第25期への抱負を説明させて頂きます。

1. 業界のブレイクスルー：新製品開発による成長モデルの確立 ⇒P3

① PSSオリジナル技術の集大成：LuBEA（Line up Beads Assay）システム

PSSが目指しているのは、医療を中心とした*in vitro*（体外診断）市場において、圧倒的なコストパフォーマンスを実現する自動化システムを世界中に上市する事です。その実現の為に研究開発中のLuBEAシステムは、この度NEDOの委託研究事業として継続採択され「特定食物アレルゲンの迅速・簡易定量システム」の実用化に向けた開発を行っています。また同じコンセプトに基づき、遺伝子解析用小型汎用システムとして、Mag AmpliStand（仮称）の開発に取り組んでいます。これはパンデミックが懸念される新型インフルエンザウイルス検査への応用も視野に入れたもので、迅速、深長に作業を進めております。

② 研究開発テーマの選択と集中

*in vitro*市場への早期上市による新規事業の確立を図る為に、LuBEA型システムを軸として、研究開発テーマの一層の絞込みを行いました。そしてPSSの強みである、オリジナルハードウェア技術を切り口としたシステムインテグレーションのノウハウを生かすために、その組織機能を100％子会社であるユニバーサル・バイオ・リサーチ（UBR）社に移管して、PSSの研究開発活動を集約する事に致しました。今後はできる限り各分野の専門化集団と組む事により更なる研究開発活動の効率化を図り、迅速な新製品の上市を目指します。

2. 既存事業の収益力強化：売上総利益の改善 ⇒P4

売上の柱であるDNA自動抽出装置は、ロシュグループ・キアゲングループのバージョンアップ製品を中心に順調に売上を拡大しています。本装置は、ウイルス検査の前処理（ウイルスRNAの抽出）に適合するため世界的に需要が拡大しており、世界経済の不況と円高による向い風があったにもかかわらず、前期の増収増益に多大な貢献をする事となりました。今期においてもこの状況は変わらずPSSの技術・製品は多くの施設において採用され、有効利用されていくものと考えています。またセルフリーサイエンス社と自動タンパク合成装置の製造委託契約締結により、今期の量産販売による売上貢献を視野に入れています。

そして前期から推し進めている円高対応策として、OEM取引先と為替リスク調整と円高を生かした購買による原価低減を行いました。今期においても引き続き、品質改善と原価コストダウンを視野に入れた活動を行っていきます。

3. 販売費及び一般管理費（販売管理費）削減：最終損益黒字化 ⇒P5

PSSグループ社員が一致団結をした経費削減策と予算管理の厳格化により、通期においては対前期比328百万円減、対予算比133百万円減のコスト削減を達成する事ができました。今期においても、引き続きこの経費削減努力を全社員一致団結して行います。

最後に

今期においては、ご説明致しました３つの事業指針に基づいた施策を徹底して更に効率的に行うために、組織改革を期初に行いました。

株主の皆様のご期待に応える成果をお見せできるように事業を推進してまいりますので、引き続きご支援のほどを何卒宜しくお願い申し上げます。

プレシジョン・システム・サイエンス株式会社
代表取締役社長 田島秀二

業界のブレイクスルー：新製品開発による成長モデルの確立

LuBEA システム

高
定量性
低

低　コスト　高

圧倒的なコストパフォーマンスの実現を視野に入れた新製品開発

・シンプルな技術によるコンパクトな装置
・遺伝子からタンパク質までの多種多様なバイオコンテンツに対応可能（Pendulum Strategy）
・定量性の高い検査データと低コストの装置による新たな市場開拓を目指していきます。

今後の製品開発イメージ

●小型・簡易・高感度 DNA・RNA 全自動解析システム
（遺伝子関連）
SNP（ヒト・多型）
新型インフルエンザウイルス
肝炎ウイルス

Pendulum

●全自動免疫測定システム
（タンパク質関連）
感染症
がん
アレルギー
甲状腺
マーカー測定
小型動物免疫
マルチプレックス測定
食品アレルゲン

A）病院、小規模研究施設
ウイルス感染症、遺伝子検査を実施

B）がん、新診断手法への応用
（DNA、ウイルス、マーカー）の
遺伝子・タンパク相関解析への応用

C）食品、原材料の表示義務を一括測定

• 特定食物アレルゲン定量システム実用化支援（H21.5.29 プレスリリース）

・特定食物アレルゲンの迅速・簡易な定量法の開発が NEDO「SBIR 技術革新事業」に継続採択（年間予算約５千万円）されました。前回の研究開発段階から、今回は実用機を完成させて、食品事業者が比較的容易に導入できる、安価、迅速及び簡易な特定食物アレルゲン定量システムの早期実用化を目指します。

特定食物アレルゲンの迅速・簡易定量システム完成イメージ

７項目同時解析ツール
試薬カートリッジ
搭載
現場で手軽に使えるシステム
LuBEA システム
抽出液

小麦	そば	落花生	乳	たまご	かに	えび
−	−	＋	−	＋	−	＋

測定結果

早期に臨床研究市場へ上市後に許認可を得て臨床検査市場へ

事業指針2 既存事業の収益力強化：売上総利益の改善

第24期実績（第23期比較）

・円高基調の影響
・利益率40%は確保!

利益率改善活動

1. 円高メリットを生かした海外調達による製造原価削減
   - ・仕入れ価格引下げ交渉
   - ・消耗品のPSSによる一括調達、業者へ支給
     （原材料価格高騰への対応としてスタート
     ⇒現在、価格下落+円高メリットが出ています。）

2. OEM取引先との契約条件（為替変動調整）の交渉
   - ・OEM先との販売価格のほとんどにおいて、為替リスクを分担できる契約条件内容への見直しを行いました。

第25期においても引き続き、品質改善と原価コストダウンを視野に入れた活動を行います。

	H20/6期		H21/6期		対前期比
	百万円	%	百万円	%	%
DNA自動抽出装置等	1,524	44.9	2,184	57.4	43.3
その他理化学機器	191	5.7	102	2.7	△46.6
その他製品	510	15.0	523	13.8	2.6
商品（プラスチック消耗品）	1,145	33.7	976	25.7	△14.8
その他営業収入	25	0.7	15	0.4	△39.6
合　計	3,397	100	3,802	100	11.9

自動タンパク質合成装置に関する製造委託契約を締結（H21.4.13 プレスリリース）

独自のタンパク質合成技術を持つセルフリーサイエンス社との製造委託契約締結により、今期の量産販売による売上貢献を視野に入れています。

事業指針３ 販売費及び一般管理費削減：最終損益黒字化

第 24 期（第 23 期比較）
営業利益改善額 399 百万円

事業指針２：売上総利益の改善額

70百万円 ＋ 328百万円

販売管理費内訳（単位：百万円）

	H20/6期	H21/6期
合計	1,596	1,267
その他	484	415
研究開発費	414	304
減価償却費	200	86
人件費	496	460

対予算比133百万円減

対前期比削減額
合計 328百万円内訳（単位：百万円）

項目	金額
その他	69
研究開発費	110
減価償却費	114
人件費	36

第24期連結損益（第 23 期比較）

（単位：百万円）

項目	金額	備考
営業利益	258	（前期比399百万円増）
経常利益	217	営業外費用（為替差損）として44百万円計上（前期比465百万円増）
純利益	73	特別損失として投資事業組合管理報酬返還金33百万円、法人税等調整額67百万円（欧州子会社より配当金受取方針）計上（前期比474百万円増）

第25期においてこれら３つの事業指針を徹底して行える体制の構築

更なる組織運営の効率化の為には、
創造性の高い研究開発活動に特化した組織の必要性

研究開発活動を子会社UBR社へ集約

（H21.6.29　プレスリリース）

・オリジナルハードウェア技術を切り口としたシステムインテグレーションに特化
・今後はできる限り各分野の専門化集団と組む事により更なる研究開発活動の効率化を図り、迅速な新製品の上市を目指します。

第25期について （H21.8.14 プレスリリース）

通期の見通しについて

	H21年6月期 第24期連結会計年度		H22年6月期 第25期の見通し		対前期比較	
	金額1	百分比	金額2	百分比	金額2−1	増減率
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
①売上高	3,802	100.0	4,000	100.0	197	5.2
売上総利益	1,525	40.1	1,600	40.0	74	4.9
②販売管理費	1,267	33.3	1,320	33.0	52	4.1
営業利益	258	6.8	280	7.0	21	8.5
経常利益	217	5.7	260	6.5	42	19.8
③当期純利益	73	1.9	200	5.0	126	171.7

①第25期の見通しに関しては、引き続きロシュグループ・キアゲングループが好調を維持し、米国OEM先を中心にその他取引先も売上伸張するものと見込んでおります。為替の見通しは、1ユーロ=135円、1ドル=95円にて算定しており、第24期連結会計年度の期中平均レートとほぼ同様の水準としております。

②販売管理費については4.1%の増加を見込んでおりますが、人件費・研究開発費・その他経費ともに増加する見通しであります。

③第24期連結会計年度においては、営業外費用として為替差損44百万円、特別損失として投資事業組合管理報酬返還金33百万円、法人税等調整額として67百万円など、特殊事情による費用計上がありましたが、第25期の見通しにおいては、そういった費用は予定しておりません。

配当方針について

基準日	1株当たり配当金					配当性向（連結）
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	年間	
	円　銭	円　銭	円　銭	円　銭	円　銭	%
H22年6月期（予想）	—	0.00	—	1,000.00	1,000.00	21.4

株主の皆様への配当を一日も早く開始できる経営環境に到達することを目標に、黒字体質の定着を目指してまいりました。第24期の当期純利益は73百万円を達成し、第25期は200百万円を計画しております。したがって第25期より、株主の皆様への配当を開始したいと考えております。

内部留保については、研究開発活動を中心として、企業価値を高める様々な活動に利用していく方針です。そのため、配当と内部留保のバランスをとりながら株主還元を行ってまいりたいと考えておりますので、当面の間は、配当性向20%を目安とする方針です。第25期の配当に関しましては、期末配当として1,000円（配当性向21.4%）を予定しています。

役員の人事異動について

小幡公道 常務取締役は、PSSグループの重要な戦略拠点である、PSSが100%出資する米国子会社、Precision System Science USA, Inc.（以下、「PSS USA」という。）の社長として活動するとともに、本社の常務取締役も務めてまいりましたが、今般、PSS USAの業容が拡大してきたこと、また今後の更なる発展のため、これまで以上に米国に重点を置いて活動する目的から、本社の常務取締役の職を辞し、取締役になることと致しました。なお、PSSグループの特許管理・研究開発ための子会社UBR㈱の取締役としても、引き続き、バイオ業界における豊富な知識と経験を生かし、研究開発での助言を行ってまいります。

これにともない、後任の常務取締役には、PSSグループの財務・経理などの管理部門を統括してきた秋本淳 取締役 業務本部長を選任することと致しました。

氏　名	新　職	現　職
秋本　淳（アキモト　ジュン）	常務取締役 業務本部長	取締役 業務本部長
小幡　公道（オバタ　キミミチ）	取締役	常務取締役

資本準備金の額の減少及び剰余金の処分に関するお知らせ

1．資本準備金の額の減少及び剰余金処分の目的
　繰越利益剰余金の欠損を補填し解消することにより、財務体質の健全化を図り、今後の配当財源の確保や財務戦略上の弾力性を確保するものです。

2．資本準備金の額の減少の内容
　会社法第448条第１項の規定に基づき、資本準備金を減少し、その他資本剰余金に振替えるものです。
（1）減少する資本準備金の額
　2,508,354,388円のうち2,431,770,751円
（2）増加するその他資本剰余金の額
　2,431,770,751円

3．剰余金処分の内容
　会社法第452条の規定に基づき、上記により増加したその他資本剰余金を、繰越利益剰余金に振替え、欠損を補填するものです。
（1）減少する剰余金の項目とその額
　その他資本剰余金　2,431,770,751円
（2）増加する剰余金の項目とその額
　繰越利益剰余金　2,431,770,751円

第24期連結業績概況

連結貸借対照表

（単位：千円）

科目	第23期連結会計年度（平成20年6月30日現在）	第24期連結会計年度（平成21年6月30日現在）
（資産の部）		
流動資産	**3,202,196**	**3,271,560**
固定資産	**1,022,391**	**851,641**
有形固定資産	933,196	805,340
無形固定資産	13,851	6,026
①投資その他の資産	75,344	40,274
資産合計	**4,224,588**	**4,123,202**
（負債の部）		
流動負債	**866,139**	**739,150**
②固定負債	**934,858**	**824,983**
負債合計	**1,800,997**	**1,564,134**
（純資産の部）		
株主資本	**2,339,321**	**2,412,235**
資本金	2,041,778	2,041,778
資本剰余金	2,508,354	2,508,354
利益剰余金	△2,210,810	△2,137,896
評価・換算差額等	**84,268**	**△11,832**
繰延ヘッジ損益	57	△18
為替換算調整勘定	84,210	△11,814
少数株主持分	—	**158,664**
③純資産合計	**2,423,590**	**2,559,067**
負債・純資産合計	**4,224,588**	**4,123,202**

第24期（第23期連結会計年度比）

①新たに子会社を連結した影響から投資有価証券が減少したため、投資その他の資産は35百万円減少しました。

②繰延税金負債が67百万円増加した一方、長期借入金が182百万円減少したことなどから、固定負債全体では109百万円の減少となりました。

③当期純利益の発生により利益剰余金が72百万円増加、新たに子会社を連結したことに伴い、少数株主持分が158百万円増加しました。一方で、為替換算調整勘定が96百万円の減少となりました。純資産合計としては、135百万円の増加となりました。

連結損益計算書

（単位：千円）

科目	第23期連結会計年度 自 平成19年7月 1日 至 平成20年6月30日	第24期連結会計年度 自 平成20年7月 1日 至 平成21年6月30日
売上高	**3,397,932**	**3,802,466**
売上原価	1,942,344	2,276,722
売上総利益	**1,455,588**	**1,525,744**
販売費及び一般管理費	1,596,607	1,267,648
営業利益	**△141,018**	**258,096**
営業外収益	22,122	22,727
営業外費用	129,177	63,817
経常利益	**△248,074**	**217,005**
特別利益	15,167	1,130
特別損失	124,961	35,740
税金等調整前当期純利益	**△357,868**	**182,395**
法人税、住民税及び事業税	42,836	55,092
法人税等調整額	△146	67,571
少数株主損失	—	**△13,868**
当期純利益	**△400,557**	**73,599**

連結キャッシュ・フロー計算書

（単位：千円）

科目	第23期連結会計年度 自 平成19年7月 1日 至 平成20年6月30日	第24期連結会計年度 自 平成20年7月 1日 至 平成21年6月30日
④営業活動によるキャッシュ・フロー	**199,351**	**339,751**
投資活動によるキャッシュ・フロー	**238,872**	**255,883**
⑤財務活動によるキャッシュ・フロー	**△457,832**	**△173,255**
現金及び現金同等物に係る換算差額	394	△74,852
現金及び現金同等物の増減額	△19,213	347,527
現金及び現金同等物の期首残高	1,478,611	1,459,398
連結の範囲の変更に伴う現金及び現金同等物の増減額	—	145,630
現金及び現金同等物の期末残高	1,459,398	1,952,556

第24期（第23期連結会計年度比）

④税金等調整前当期純利益182百万円、減価償却費167百万円、売掛債権の減少92百万円などによる資金の増加がありましたが、たな卸資産の増加72百万円、法人税等の支払額41百万円などによる資金の減少があり、339百万円の増加（第23期は199百万円の増加）となりました。

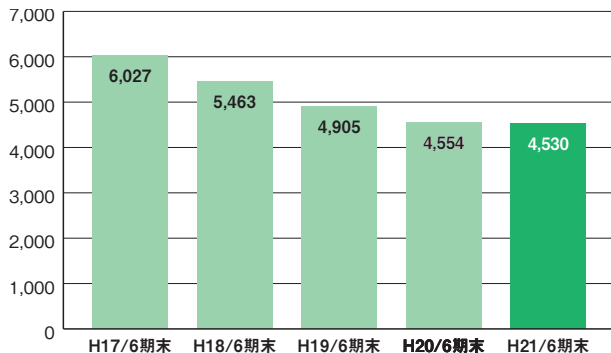
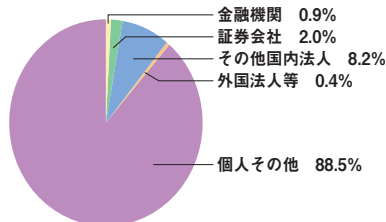
⑤長期借入による収入150百万円の資金増加がありましたが、長期借入金の返済による支出323百万円の資金の減少があり、財務活動によるキャッシュ・フローは173百万円の減少（第23期は457百万円の減少）となりました。

株式の状況（平成21年6月末現在）

発行可能株式総数 …… 171,200株
発行済株式の総数 …… 42,840株
株主数 …… 4,530名

大株主

株主名	持株数（株）	出資比率（%）
田島　秀二	11,373	26.5
有限会社ユニテック	3,000	7.0
高山　茂	494	1.2
高橋　計行	477	1.1
小幡　公道	436	1.0
佐賀　健二	400	0.9
井上　功	389	0.9
亀山　稔	350	0.8
プレシジョン・システム・サイエンス従業員持株会	344	0.8
石井　孝哉	329	0.8

株主数推移（名）

所有者別保有株式数

会社概要（平成21年6月末現在）

商　　号：プレシジョン・システム・サイエンス株式会社
（英文社名）：Precision System Science Co., Ltd.
設立年月日：1985年7月17日
役　　員：代表取締役社長　田島 秀二
常務取締役　小幡 公道
取締役　秋本 淳
取締役　長岡 信夫
取締役　西村 擀司
取締役　平原 善直
取締役　東條 百合子
監査役　高橋 達雄
監査役　高橋 信雄
監査役　荻原 大輔

（注）高橋信雄氏及び荻原大輔氏は、会社法第２条第16号で定める社外監査役です。

資　本　金：2,041百万円
従 業 員 数：104名
（グループ会社役職員、派遣社員、パート等を含む）
連結子会社：
- ●Precision System Science USA, Inc.（米国）
- ●Precision System Science Europe GmbH（ドイツ）
- ●ユニバーサル・バイオ・リサーチ㈱（千葉県松戸市）
- ●PSSキャピタル㈱（千葉県松戸市）
- ●バイオコンテンツ投資事業有限責任組合（千葉県松戸市）
- ●ジェネテイン㈱（東京都千代田区）
- ●PaGE Science㈱（東京都小金井市）

事 業 内 容：遺伝子・タンパク質解析関連業界における研究開発やその研究成果の実用化に用いられる自動化装置、その他理化学機器、ソフトウェア等の開発及び製造販売、ならびに自動化装置に使用される試薬及びプラスチック消耗品の製造販売等

個人投資家説明会ご案内

	東京開催	大阪開催
開催日時	平成21年11月28日(土) 13:00～16:30(予定)※1	平成21年12月5日(土) 13:00～15:30(予定)※1
会　　場	**三田NNホール** 東京都港区芝4-1-23 三田NNビル地下1階 TEL:03-5443-3233	**ハートンホール** 大阪市中央区南船場4-2-4 日本生命御堂筋ビル12階 TEL:06-6258-1141
主催者	株式会社インベストメントブリッジ (ブリッジサロン※2:2-3社合同説明会)	
内　　容	社長田島秀二より、直近の業績概況及び事業進捗について説明申し上げます。	
ご参加申込方法	事業報告書裏表紙の申込葉書に必要事項をご記入の上、弊社宛にご返送下さい。 後日、主催者もしくは弊社よりご案内状を送付申し上げます。 なお、ご案内状のお届け方法はメールもしくは郵送をご選択いただけます。※3	
お問い合わせ先	プレシジョン・システム・サイエンス株式会社　業務本部　IR・社長室　TEL:047-303-4800	

※1　記載しております開催時間につきましては、予定であるため変更される可能性があります。詳細は、後日お届けするご案内状をご参照下さい。
※2　ブリッジサロンは、(株)インベストメントブリッジが主催するIR会社説明会です。
※3　各主催者及び弊社は、メールもしくは参加申込葉書にご記載いただいた情報につきまして、上記以外の目的には利用いたしません。

平成21年4月個人投資家説明会より(大阪)

平成21年6月国際BioExpo(東京)

株主メモ

●事業年度
毎年7月1日から翌年6月30日まで
●剰余金の配当基準日
期末配当金 毎年6月30日　中間配当金 毎年12月31日
●定時株主総会
毎年9月
●単元株式数
1株
●株主名簿管理人
事務取扱場所
東京都中央区八重洲一丁目2番1号
みずほ信託銀行株式会社　本店証券代行部
●公告方法
電子公告（http://www.pss.co.jp）
ただし、やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合には、日本経済新聞に掲載して行います。

	証券会社に口座をお持ちの場合	特別口座の場合
郵便物送付先	お取引の証券会社になります。	〒168-8507 東京都杉並区和泉2-8-4 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部
電話お問い合わせ先		0120-288-324（フリーダイヤル）
お取扱店		・みずほ信託銀行株式会社 本店及び全国各支店 ・みずほインベスターズ証券株式会社 本店及び全国各支店
ご注意	未払配当金の支払・支払明細発行については、右の「特別口座の場合」の郵便物送付先・電話お問い合わせ先・お取扱店をご利用下さい。	単元未満株式の買取・買増以外の株式売買はできません。電子化前に名義書換を失念してお手元に他人名義の株券がある場合は至急ご連絡下さい。

こちらの申込葉書に必要事項をご記入の上、弊社宛にご返送下さい。（開催日直前にご返送して頂いた場合には、ご案内状が送付できない場合がありますので、ご注意して下さい。）

プレシジョン・システム・サイエンス株式会社
個人投資家向け会社説明会

ご参加を希望される会社説明会に☑をご記入の上、本状を弊社宛にご返送下さい。

□東京開催

開催日時　**平成21年11月28日(土) 13:00～16:30**(予定)
会　　場　**三田NNホール**
東京都港区芝4-1-23　三田NNビル地下1階
T E L　**03-5443-3233**

□大阪開催

開催日時　**平成21年12月5日(土) 13:00～15:30**(予定)
会　　場　**ハートンホール**
大阪市中央区南船場4-2-4　日本生命御堂筋ビル12階
T E L　**06-6258-1141**

●お問い合わせ
プレシジョン・システム・サイエンス株式会社　業務本部　IR・社長室
TEL：047-303-4800

郵便はがき

料金受取人払郵便

松戸局承認

637

差出有効期間
平成21年12月31日
まで（切手不要）

271-8790

千葉県松戸市上本郷88
プレシジョン・システム・サイエンス株式会社
業務本部　IR・社長室　行

お名前	フリガナ	年齢	歳
ご住所	□□□-□□□□ 案内状のお届け方法をお選び下さい。 □郵送　□Eメール（メールアドレス：　　　　　　　）		
TEL			

PSS　IRメール配信のご案内

PSSでは、個人株主・投資家の皆様とのコミュニケーションをはかるため、Eメール配信を行なっております。プレスリリースや会社説明会のご案内などを、オンタイムでお知らせしております。

PSSホームページ（http://www.pss.co.jp）からメールアドレス登録ができますので、是非ご登録下さい。

モバイル用URL：　http://m-ir.jp/c/7707/

QRコード（カメラ付携帯電話のバーコードリーダーをお使い下さい）

詳しくはご利用中の携帯電話の取扱説明書をご覧下さい。

プレシジョン・システム・サイエンス株式会社
業務本部　IR・社長室

〒271-0064　千葉県松戸市上本郷88
TEL:047-303-4800　FAX:047-303-4810
Eメール:ir@pss.co.jp

http://www.pss.co.jp